



馬耳東風

先月の熊本地震の被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。地震列島といわれるわが国にあって、大地震の危険度が低いとされ、そのため建築物の耐震強度の基準が東京より10%~20%低く設定されている熊本県でこのような大地震が起きたことは、寝耳に水の驚きであった。現地の方々も全く同じ思いであろう。今回の地震でもまた倒壊した建物の下に閉じ込められたり、建物そのものが押し流されて行方不明になったりした人たちが多数いた。そうした人たちを懸命に搜索する様子を重い気持ちで見ながら、あることが改めて想起された。

私は毎朝愛犬に散歩に連れて行ってもらっているが、時々電柱に行方不明になった犬や猫を捜す飼い主の張り紙を見かける。自宅の電話番号を何行にもわたって書き、一行ごとに切り取りやすいようにミシン目まで入れた張り紙からは、何としてでも愛犬、愛猫を捜したいという飼い主の切実な思いが伝わって来る。そしてそのたびに私は、以前認知症になった父親が時々家を抜け出して行方不明になった時のことを思い出す。仕事場に家内から電話がある度に早退し、自宅付近を自転車で回りながら捜すのだが、自分で見つけたためしがない。いつも自宅から随分離れたところで保護され、着衣に縫い付けた自宅の電話番号で知らされたものであった。

あの頃から約30年、IT技術の進歩には隔世の感がある。以前は車で遠出するとき道路地図を持ったものだが、今はカーナビさえあれば初めてのところでも全く問題なく到達できる。所在確認にこの技術を応用できない

ものかと考えていたら、子供の見守りのため、スマートフォンを利用した「所在確認アプリ」なるものが開発されていることを知った。しかしスマートフォンでは、常時身につけておくことはできないので、ペンダントや指輪くらいまで小型化されれば、災害時の所在確認には威力を発揮してくれるだろう。今回の熊本地震で思い知らされたように、わが国は、いつ、どこで大地震が起きるかわからないのだから、このような所在確認のためのMCチップを早急に開発していただきたいと思う。マイナンバー制度よりも喫緊の課題と考えるのがいかがであろうか。但し、このような所在確認のMCチップは、ある場所に行っているはずの人間が、思わぬところで所在確認されたりするといった個人のプライバシーとの関連が問題になるかもしれない。しかし、自然災害が起きるたびに行方不明者の搜索に時間を要し、早期に救出されれば助かった命を救えないといった悲劇をなくすための解決策はあるはずである。

なお、これらは体内に埋め込めるくらいの小型化が望ましい。特に犬や猫の場合は、体内埋め込みは必須であろうが、わが家の愛犬に挿入している個体識別のMCチップ程度のサイズが望まれる。さらにマイクロSDカードくらいまで小型化されれば利用範囲はぐっと広がる。私のように歳をとると探し物をする回数が増える。携帯電話なら鳴らして所在を確認できるが、そのほかのものはお手上げである。そこでよく所在不明になるもの一つ一つにMCチップを貼りつけておき、そのMCチップの番号を入力すればモニターにその場所が表示されるようになれば便利なのだが、と夢想している。

(久)